

我南小発 第12号

令和4年7月 7日

我孫子市教育委員会 へ

我孫子市立布佐南小学校学校運営協議会
会 長 志垣 健二郎

令和4年度 第2回学校運営協議会 会議報告書 このことについて、我孫子市学校運営協議会規則第12条の規定により、次のとおり報告します。

出席委員名 谷口育男, 山田恭生, 糸賀貴之, 志垣健二郎, 駒場アサ子
川村 武, 吉岡朋久, 新堀 都
記録者 氏名 山田 恭生

(令和4年 4月27日実施)

主な議事	発言者	協議・発言等の概要
※授業参観後、協議会		
1. 会長あいさつ	会長	○会に先立ってのあいさつ
2. 校長あいさつ	校長	○コロナ禍における行事のあり方について説明
3. 教育課程の説明	教務	○1学期の学校行事についてスライドを用いて説明 ○2学期の学校行事予定についてスライドを用いて説明
4. 協議等	校長	○教育にミニ集会を11/30に布佐中で実施予定である。その際の、グループ討議のテーマは大きくいうと「地域連携」である。この場において更に具体的な案があればお聞かせ願いたい。
	会長	○学校の求めるものと地域をマッチングしていきたい。
	委員	○地域連携をするには、自治会長も参加して地域のことを知るべきである。
	委員	○地域の行事には、高齢者の参加が多い。子どもや若手が積極的に参画できるようにしたい。
	委員	○運動会について。コロナ禍での1家庭2人までの人数制限はいかなるものか。地域や家族で子どもたちを応援したい。近隣では1家族6人以内という学校があった。南小は、南小のやり方でよりよい教育活動を実施

		願いたい。
会長		○各地域において特色を出してほしいということによいか。
委員		○よい。
委員		○教育ミニ集会を「コミュニティ・スクール」「小中一貫教育」を徹底、浸透させる場にしてほしい。そのためには、保護者の理解が一番大切なので、是非、ディスカッションの場に教育委員会職員も各グループに入ってアピールを願いたい。
委員		○いつものメンバーではなく、より多くの人たちに呼びかけて理解をしてほしい。まだ、「何かやってる」位の意識であるように思う。他人事にならないようにしていかなければならない。
委員		○「教育ミニ集会」というものに興味がわきにくい。もっと強めのアピールが必要である。知るきっかけ作りを学校からも発信願いたい。
委員		○いじめ問題の時には、教育ミニ集会も参加者が多かった。それは、テーマに関心があったということ。
会長		○「コミュニティ・スクール」の取り組みは、まずは我々が理解してから呼びかけていく必要がある。
委員		○他人事にならないように進めるには、教育ミニ集会だけでなく、自治会単位の集まりも活用していきたい。
会長		○学校と地域の間に遠慮がある。「負担をかけたくない」という思いもある。
校長		○各校で、これまでの取り組みをいったん整理し、共有し、そのことを取りまとめて報告したい。人が変わっても取り組みを継続していきたい。
教頭		○1部のメンバーでつくるコミュニティ・スクールや小中一貫教育を打破するための一端を担いたい。
教務		○会に参加して見識が深まった。できることをしっかりやりたい。

5. 諸連絡	委員	○運営協議会等の資料一式を早めにほしい。
	教頭	○承知した。
	会長	○資料等は、会長にできれば一括して会長が委員に渡す。できることは協力する。委員を使ってほしい。
	委員	○私も協力は惜しまない。
	会長	○上級生が下級生の面倒を見る温かい雰囲気をつくり、児童のコミュニケーション力を育成してほしい。
	委員	○1年生児童が泣いていた時に、他学年児童が励まし慰めていた。ほほえましい光景であった。
	校長	○南小には、そのような温かい雰囲気があると感じている。
	委員	○集団登校等、検討の余地がある。 ○地域を巻き込むにはどうしたらよいか、それは、シンプルである。自己満足ではなく、よりよいものという考えでいければよい。「コミュニティ・スクール」や「小中一貫教育」が自己満足であってはいけない。
	委員	○学校だよりが回覧されるようになり、とてもうれしい。7月の学校だよりの内容がとてもよかった。今後も協力したい。
	6. 閉会	教頭